

病棟業務の一日 <早朝編>



早朝5時、その一日のスタートとして入院患者さんのオムツ交換と体位交換から病棟の業務は始まりま
す。その後、看護師と看護補助はそ
れぞれの業務へと分かれて動きま
す。看護補助業務は洗面やトイレ介
助、ベッドからの車いすへの移乗介
助、朝食提供と介助、再びオムツ交
換と清拭へと流れていきます。看
護師は患者さんのバイタルサインを
チェックしながら全身状態を観察
し、採血・採尿、排泄状況を確認し
ていきます。一通りの動きが終わる
と記録をして決められた時間に施行
するインスリン注射などを行いま
す。8時の朝食配膳はあつという間
にやってきて服薬を確認し朝食介
助を行います。平日であれば医師の回
診も朝のうちにわれ、私たち看護
師は患者さんの夜間の状態を医師に
報告しそれぞれの指示をもらって日
中の医療や看護を提供していく流れ
になります。そして申し送りで日勤
のスタッフへつなぎ夜間業務は終了
します。

日が暮れる夕方に始まる業務は長
いものの、時は流れ世間一般が動き
出す頃に帰宅する安堵の思いはたく



(文責 看護師長 田口美紀子)

さんの方々の命を預かる看護業務な
らではのことと感しています。

◆お問い合わせ先◆ 天塩町立国民健康保険病院 ☎(2)1058

防災ひとくちメモ

できていますか、暴風雪への備え

暴風雪に伴う災害には、暴風による歩行困難、視界不良(ホワイトアウト)による方向感覚の喪失、体温が奪われる事による低体温症等の人的被害や、ふぶきや吹きだまりによる交通障害、着雪害による停電や家屋の損壊、倒木等があり、北海道では毎年のように発生しています。

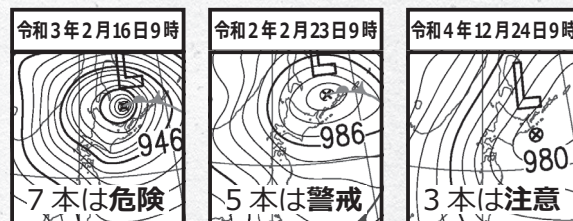
特に平成25年3月には、道東地方を中心として発生した暴風雪により9名の方が亡くなり、500台以上の車が立ち往生するなど大きな災害となりました。気象台では暴風雪により広範囲に災害が予想されるときには「数年に一度の猛ふぶき、外出を控えて下さい。」のキーワードを用いた気象情報を発表して、暴風雪に対する厳重な警戒を呼びかけます。

暴風雪災害は、晴天から荒れた天気へ急変したときに特に多く発生していますので、暴風雪警報が発表されたときは、今の天気が良くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを事前に確認しましょう。また、暴風雪になっても安全に過ごすため、日頃から家では停電に備える、車で外出するときは車が立

ち往生することに備えるなど、予め必要な物を考えて準備しておきましょう。

※暴風雪の豆知識

天気図で北海道にかかっている等圧線の数で、暴風雪の危険度がわかります。



《出典》気象庁「日々の天気図」
<https://www.data.jma.go.jp/yoho/hibiten/index.html>

七五三で覚えてね



《気象庁ホームページ「暴風雪への備え」》

<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/bosai/publication/boufusetu/boufusetu.html>

◆お問い合わせ先◆

旭川地方気象台

☎0166(32)7102

<https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/index.html>

